



徳山大学広報

# 学園台の風

第48号

平成20年6月1日 発行

## <学生生活のいま>

**福祉情報学科 社会福祉コース2年**

丸山 法子 さん（熊本県立八代高校出身）

子供に関する福祉について学びたくて、この大学を選びました。現在は教職課程を履修し、児童福祉関連施設にボランティアにもでかっています。

大学の行事に積極的に参加しながら充実した時間を送っています。



徳山大学

撮影・編集 中村道陽

山口県周南市学園台

TEL 0834-28-0411 (代)

# 人間的に幅のある 教師を育てたい

## 下部匡司

教育に関するニュースを見てわかるように、明るくて夢のあるような話題は、ほとんど見当たりません。学級崩壊、いじめ、不登校の問題をはじめ、数年前からは学力低下、教育格差、指導力不足教員の問題も深刻となり、さらに最近では学習障害（LD）やモンスタートー親の問題まで出てきています。

こうした状況の中で、ぜひ教師になりたい。むしろこんな状況だからこそ教師になりたい。そんな熱い学生が、徳山大学にも多くいます。周知のとおり徳山大学は、経済学部や情報福祉学部はあっても「教育学部」はありません。つまり徳山大学の学生は、自分の専門（経済や福祉情報）を学んだ上に、さらに教員免許を取るための授業（教職課程）を受けるわけです。自分の専門だけでも単位を取るのが大変なのに、さらに教職課程の単位を取ろうとする学生が、全体の約三分の一もいる。さすがに驚きました。

私は本年四月、教職課程の担当教員として徳山大学に赴任してきました。



ドイツ キースレグ小学校での授業

具体的に言えば、「教育学」「教育原理」「教師論」「教育課程論」「教育行政論」「教育実習の研究」など、いわゆる教職教養と呼ばれる分野の授業を担当しています。これらの授業を通して「教師に最低限必要な力量」を備えるだけでなく、徳山大学の学生たちにはぜひ「人間的に幅のある教師」になってもらいたいと思います。教師にとって、教室できちんと授業ができるようになることも重要ですが、特に昨今のような価値観の多様化した社会では、物事を多角的な視点から把握できるようになることも重要になってきます。



こうした私の想いは、特に「教育学」の授業の中に典型的に現れています。「教育学」では「世界の学校を旅する」と題して、世界の学校における教育文化を比較的考察するという授業を展開しています。これは学問的には、私の専門である比較国際教育学の授業に該当します。比較国際教育学は、世界各国の教育に見られる特徴と問題点を広い視点から眺めることによって自国の教育問題を解決するためのヒントを得るという学問です。例えば、世界の職員室を見てみましょう。

日本の学校の職員室は「教師の仕事場」であり、各学年の教師が固まった状態で自分の机が用意されています。また児童生徒は気軽に職員室に相談に来ます。ところがドイツの学校の職員室は、各教師の名前が書かれた棚が設けられているだけの「連絡ボックス型」で

あり、教師は職員室内のどの場所に座ってもよいようになっています。しかも、児童生徒は職員室に入ることが禁止されています。また中国の学校の職員室は、図書館や予備校の自習室のように各教師の机が相互に仕切られており、いわゆる「半個室の状態」になっています。さらにアメリカのように、教師が自分の教室を持ち児童生徒がその先生のところへ移動して授業を受けるというタイプの学校では、職員室は単なる「休憩室」以上の意味を持ちません。このような文化的違いは、それぞれの国における「教職の意味」や「教師と児童生徒の意味関係」の違いとして理解することもできます。このように視点を広げてみると、私たちが日常的に「あたりまえ」だと思ってきたことが意外とそうでもなかったことに気づくでしょう。教育学のおもしろさは、こうした「驚き」や「意外性」にあります。徳山大学の学生には、こうした経験を積み重ねながら、ぜひ視野の広い「人間的に幅のある教師」になってもらいたいと思います。



### 下部匡司（うらべまさし）准教授

2008年4月から徳山大学経済学部准教授に就任。着任前は、日本学術振興会特別研究員、ドイツ連邦共和国エルランゲン・ニュルンベルク大学教育学部客員研究員、広島大学大学院教育学研究科教育学講座

# 特色ある

## 新しいクラブ活動

徳山大学ではここ数年、特色のある新しいクラブの活動が行われています。今回はその中から2団体を紹介します。



ビジネス戦略学科スポーツマネジメントコース1年  
大迫聖也君（広島大学附属高校出身）

的は10の円で構成され、内側中心部分（黄色部分）から10点~1点で、合計得点で競技は競われる。



50M先の的に向い、スコープで確認しながら、矢を放つ。想像以上の的は遠いのです。

### 【アーチェリー部】

本年度新設のアーチェリー部で初代部長を務める大迫君。高校の時に先輩の勧めで始めたのがきっかけですが、「今では何よりもアーチェリーが好きです」と話してくれました。

この競技は30M・50M・70M・90Mの位置からの向って矢を放ちその精度を争うものと、フィールド競技という、山を歩きながら的を射るゴルフに似た種目などがあります。現在部員は彼1人ですが、来年度は山口県近郊より、一緒に競技を希望する選手の声ですでに上がっています。まもなく学内にアーチェリー練習場も完成予定で、山口国体へ向けての活躍も期待されています。大迫君自身の目標としては、世界大会、オリンピックに出場できる選手になりたいということです。大きな希望を抱きながら、徳山大学アーチェリー部は第一歩を踏み出しました。

### 【知財開発研究会】

知財開発コースの学生を中心に構成されるこのクラブは、知財開発に関するマンガ・シナリオ・映像など6部門に分かれています。今回ご紹介するのは、造形部門担当の原田君の作品です。下記の作品は原田君のオリジナルキャラクターで、粘土を焼いたものです。作品の大きさは顔部分で1〜2cm程度のもので、すべて指先の手作業で造られています。今年の大学祭には、この作品の販売を行うとともに、知財の他部門の学生と共同で、このキャラクターの動画作品も制作上映の予定とのことです。なんとも夢とユーモアに溢れるキャラクター、一度実際の作品をご覧くださいと思います。



ビジネス戦略学科  
知財開発コース3年  
原田真也君（野田学園高校出身）



なぜか見ているだけで  
幸せな気分になる不思議な  
魅力が・・・



人工芝グラウンド遂に完成!!

徳山大学の本学グラウンドが遂に全面人工芝のグラウンドとして完成しました。新緑の木々の緑とも見事にマッチして、グラウンドを見ているだけでも癒される思いがします。最新のロングパイルを使用したこのグラウンドでは、今後体育の授業やサッカー部の練習や公式戦など行われます。徳山大学の新しい1ページにキックオフ!



ミャンマー並びに中国四川省で起きた、未曾有の大災害に対して、本学学生会と留学生会が合同で募金活動を行いました。

集められた募金は日本赤十字社を通して、被災支援として両国へ送られます。

ミャンマー・中国四川省災害支援募金活動



これからも地域と若者との交流を

5月17日周南市のNPO法人ナベツル環境保護協会の方々が、学長を訪問されました。これは、文科省委託事業である「若者チャレンジ支援事業」で、今回市内八代のナベツル越冬地の整備を行いました。このことに対して、環境保護協会の方々は大変喜ばれ、お礼の挨拶に来られました。今後は、ますます徳山大学からの学生ボランティアなどにより、若者と地域との交流が促進されることを願うとの話で、学長は「できることから交流を少しでも深めていきたい」と述べました。

【シンポジウム開催のご案内】—入場無料—

シンポジウム

「現代が求める人材像と人間力教育」

平成20年6月21日(土) 13:00~17:00



佐伯胖先生

会場 徳山大学 1125 教室

現代社会が求める人材像と人間力を育てる「EQ教育」について、各界の専門家、教育者、地域の方々と考えます。一般の多くの方のご参加をお待ちしています。

<基調講演>「共感力を生む」

青山学院大学教授・東京大学名誉教授 佐伯胖

<パネルディスカッション>

刈宿俊文(青山学院大学教授・NPO環境デザイン工房理事長)

久楽信吾(周南市立福川中学校教諭)

斎藤彰悟((株)ビジネスコンサルタント代表取締役会長)

杉光英俊(徳山大学学長)

司会 臼井稔(徳山大学特任教授)

主催: 徳山大学 後援: 山口県教育委員会

プレオープンキャンパス 2008

6/14[sat] 7/12[sat]

時間 ●11時~15時(自由参加)  
場所 ●徳山大学キャンパス

【プログラム】

- ◆学生によるキャンパスツアー (11時・13時・14時の3回)
- ◆入試説明会 (11時40分・13時40分・14時40分の3回)
- ◆無料学食試食会

お問い合わせ先

入試室 0834-28-5302

